

### JPIの「包装技術」規格提案活動について

公益社団法人日本包装技術協会 専務理事 越野 滋夫

1947年に公益社団法人日本包装技術協会(JPI)は、昭和38年(1963年)3月14日に当時の日本生産性本部内の生産・流通・各分野の包装関係者による月例研究会が独立して、日本通運(株)社長の福島敏行氏を初代会長に設立され、同年6月には通商産業省(現、経済産業省)の指導の下に社団法人として、本格的な活動を開始しました。平成23年(2011年)には「包装関連団体」としては、唯一「公益社団法人」への移行申請が内閣府により受理されました。

創立4年度の昭和41年(1966年)9月7日には、高松宮殿下同妃殿下がご臨席され第1回東京国際包装展(東京パック)を開幕し、以来隔年に内外の包装関連産業の普及振興を目的に開催しています。また、包装人材育成の柱として第1期包装管理士講座もこの年から毎年開催し、本年は第56期を数え、延15,000名の「包装管理士」を世に送り出しています。

海外に対しては昭和42年(1967年)に、アジア諸国の包装団体を糾合してアジア包装連盟を京都で設立、昭和43年(1968年)には欧州包装連盟、中南米包装連盟、アジア包装連盟の三団体に呼びかけ東京で世界包装機構を設立して以来、世界各国の包装団体と相互に情報交換し、交流を重ねています。また、平成18年(2006年)にはISO/TC122(包装)の国際事務局をトルコから引継ぎ、現在まで世界の包装分野の標準化・規格化活動を推進しています。規格設定分野としては、「消費者包装、商業包装、輸送包装、工業包装、引越包装、危険物用包装容器、幼児保護包装、高齢者・障害者配慮包装、環境配慮包装・・・」など広範多岐に亘っており、TC122の国内審議団体としてはJPIの他に一般社団法人日本自動認識システム協会、一般社団法人日本海外引越協会の二団体で、2011年以降日本から提案した国際規格としては、高齢者・障害者分野では、ISO11156・17480・19809・22015などでいずれもアクセシブルデザインに関する規格です。この他にはISO3676・780・13355・4180の輸送包装分野で特にユニットロード寸法規定、包装品の荷扱い及び保管のための図記号、振動試験、包装貨物の試験方法等の規格提案です。また、ISOに関連して我が国の包装に関わる日本産業規格(JIS)116の規格をJPI包装技術研究所が中心となって作成しています。

その主な規格分野としては、「包装用語に関する規格」「包装と環境に関する規格」「包装のアクセシブルデザインに関する規格」「包装の試験方法に関する規格」「輸送包装に関する規格」が挙げられます。これらの規格作成にあたっては、経済産業省、日本規格協会の他、日本ロジスティクスシステム協会、日本パレット協会、共用品推進機構、化学研究評価機構など多くの団体・省庁の協力に支えられている事、本誌をお借りして御礼申し上げます。

JPIは「広く包装に関する知識及び技術の普及推進に努め、生産、流通及び消費の分野における合理化を図ると共に、包装に係わる人材の資質向上に努め、もって我が国経済の発展、国民の社会生活の向上及び国際社会への貢献等、我が国の公益増進に寄与すること」を目的に活動しています。

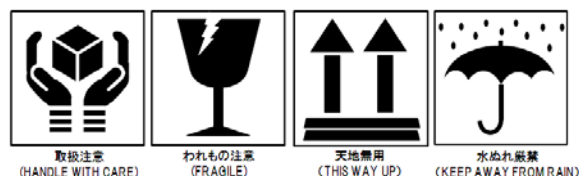
令和2年(2020年)春からのコロナ禍はいまだ終息の見通しは達っておりませんが、アフターコロナを見据えて「包装」分野の公益社団法人として持続可能な活動を粛々と行ってまいりますので、引き続き関係各位のご高配をお願い申し上げます。



#### 【参考：日本産業規格の一例】

◆ JIS Z 0150 包装—包装貨物の荷扱い図記号：2018物流過程で包装が受ける様々な障害から包装を守るため・・・荷扱いの方法を指示する記号、図などで表現方法を決めました。

外装箱に表示するケアマークの代表例



## 〇トピックス

### 3 衛生協議会の事業継承について

#### 食品接触材料安全センター

食品接触材料安全センターは、2020年6月1日に当機構内に設置されましたが、2021年4月1日をもってポリオレフィン等衛生協議会、塩化ビニル食品衛生協議会及び塩化ビニリデン衛生協議会の衛生関係事業を承継しました。

食品接触材料安全センターは、3衛生協議会の事業を全面的に引継ぎ、確実に事業を実施してまいります。このため、基本的に関係衛生協議会の人員並びに場所を引き継ぎ、事務局体制を整備しました。また、食品接触材料安全センターの会員組織である食品接触材料安全センター協議会の会員総会を6月16日に開催し、会員のニーズを踏まえた食品接触材料安全センターの運営を行っていくこととしております。

なお、食品接触材料安全センターの事務局には、総務室、企画調整室、技術室、適合確認室、情報調査・広報室等を設置し、会員のためのサービスを行います。電話番号は、以下のとおり変更されましたのでお知らせいたします。

- ・総務関係（代表） TEL 03-5244-9363 FAX 03-5244-9368
- ・技術関係 TEL 03-5244-9364 FAX 03-5244-9368
- ・適合確認関係 TEL 03-5244-9365 FAX 03-5244-9368
- ・情報調査・広報関係 TEL 03-5541-6901 FAX 03-5543-6902
- ・問合せメールアドレス [info-fcmssc@jcii.or.jp](mailto:info-fcmssc@jcii.or.jp)
- ・住所 東京都中央区新川1-4-1 住友不動産六甲ビル7階/8階

\* 食品接触材料安全センターへのご入会お申し込みは、弊機構のホームページからお願いいたします。  
<https://www.jcii.or.jp/publics/index/65/>



## ○講演会・展示会等のご案内

### 1) 「2020年度 JCII 標準化調査事業研究発表会」を開催致しました。

#### ■ 開催概要

日 時：2020年12月22日（火）14：30～16：30

（例年であれば8月～9月に東京と大阪の2会場にて開催させて頂いておりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を図るためにWEBセミナー方式で開催させて頂きました。）

参加費：無料（要事前登録）

#### ■ プログラム

成果発表1	光安定剤を配合したポリプロピレンの耐候性評価	(JCII 職員)
成果発表2	メラミン樹脂製食器のコーティングの効果について	(JCII 職員)
事業紹介1	機能性フィルムの引っかかり硬度に関する J I S 開発	(JCII 職員)
事業紹介2	食品接触材料安全センターのご紹介	(JCII 職員)

#### ■ 次回開催予定

新型コロナウイルス感染拡大の問題が解消した場合は、例年通り8月～9月に東京と大阪の2会場にて研究発表会を開催させて頂く予定ですが、新型コロナウイルス感染拡大の問題が解消しない場合はWEBセミナー方式の開催を予定しております。

詳細につきましては、改めて弊機構ホームページやメールマガジンを用いてご案内いたします。皆さまのご参加をお待ちしております。

### 2) TOKYO PACK 2021 — 2021 東京国際包装展 —

Tokyo International Packaging Exhibition 2021 に出展致しました。

高分子試験・評価センター ・ 食品接触材料安全センター

#### ■ 開催概要

会 期：2021年2月24日（水）～26日（金）3日間

開場時間：10:00 ～ 17:00

会 場：東京ビッグサイト（東京国際展示場）西1～4ホール、南1～2ホール

テーマ：未来（あす）を拓く 包みのテクノロジー

主 催：2021 東京国際包装展事務局 [(公社) 日本包装技術協会内]

#### ■ JCII 講演

<未来を拓く TOKYO PACK セミナー>

①食品用器具・容器包装のPL制度と食品接触材料安全センター紹介

講 師：石動 正和（食品接触材料安全センター 顧問）

開催日：2月25日（木） 時間：15:10～15:50 開催場所：西2ホール 特設ステージ

### <出展社による最新包装技術セミナー>

#### ②食品用器具及び容器包装における再生プラスチックの使用について

講 師： 渡辺 一成（高分子試験・評価センター 試験・評価課 衛生・化学物質安全試験  
担当課長）

開催日：2月25日（木） 時間：11:45～12:15 開催場所：西1ホール セミナーステージ

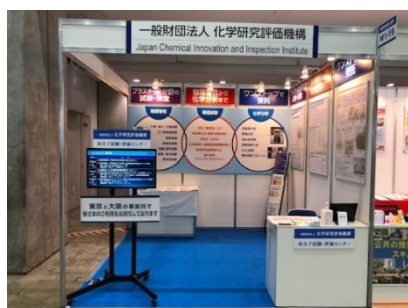
#### ③改正食品衛生法 ポジティブリスト制度と食品接触材料安全センターの役割

講 師： 梶原 健世（食品接触材料安全センター 参事）

開催日：2月26日（金） 時間：11:45～12:15 開催場所：西1ホール セミナーステージ

#### ■ 次回開催予定

2021年10月



展示ブース設営状況



セミナー開催状況（25日）

### 3) 劣化・寿命予測研究会・勉強会を開催致しました。

営業企画部

昨年6月に「劣化・寿命予測研究会 第2回 勉強会」を開催させていただき予定でございましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止を図るために開催日の変更及びWEBセミナー方式で開催させて頂き、10月29日に開催させて頂きました、

なお、本勉強会にご参加頂くには、研究会へのご入会（会費無料）が必要となりますので、皆さまのご入会をお待ちしております。

#### ■ 開催概要

日 時： 2021年3月4日（木） 14時～

参加資格： 劣化・寿命予測研究会 会員（会費は無料）

#### ■ プログラム

名 称： 劣化・寿命予測研究会 第3回勉強会

講 演： 促進耐候性試験におけるリスクアセスメントの基礎と実践

地方独立行政人東京都立産業技術研究センター 中澤 亮二 様

## ■ 次回開催予定

新型コロナウイルス感染拡大の問題が解消した場合は、今年6月に東京にて寿命予測研究会 第4回勉強会を開催させて頂く予定ですが、新型コロナウイルス感染拡大の問題が解消しない場合はWEBセミナー方式で開催させて頂きます。

詳細につきましては、改めて弊機構ホームページやメールマガジンを用いてご案内いたします。会員さまのご参加をお待ちしております。

\* 劣化・寿命予測研究会にご入会希望の方は、弊機構ホームページよりお申込み願います。

<https://www.jcii.or.jp/publics/index/26/>

## 4) 下水道展'21 大阪に出展致します。

### 高分子試験・評価センター

昨年度開催予定の「下水道展'20」については、既にご案内させていただきましたとおり、主催者の判断により来場者や出展者などの皆様の健康と安全を第一に主催者の判断によりやむを得ず開催中止となりましたが、今年度につきましては、「下水道展'21」として展示会を開催することになりました。

開催にあたっては、主催者側がガイドライン等に沿った感染症対策を講じるとともに、例年の開催形式（リアル展示会）と併せ、オンラインでの情報発信を強化した、仮想（バーチャル）展示会を開催する「ハイブリット型」の展示会とするなど、新たな取組みも多数、計画しております。

## ■ 開催概要

名称：「下水道展'21大阪」 Beyond ーみらいを変える！みらいが変わる！ー

会期：2021年8月17日（火）～ 20日（金）4日間 10：00～17：00

（初日開館 10：30、最終日閉館 16：00）

会場：インテックス大阪 1～5号館、センタービル 他

〒559-0034 大阪市住之江区南港北 1-5-102

TEL. 06-6612-8800（総合案内）

主催：公益社団法人 日本下水道協会

後援：国土交通省、環境省、経済産業省、文部科学省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、大阪府、大阪市、日本下水道事業団、産経新聞社（予定）

協賛：公益財団法人 日本下水道新技術機構など関係約 60 団体

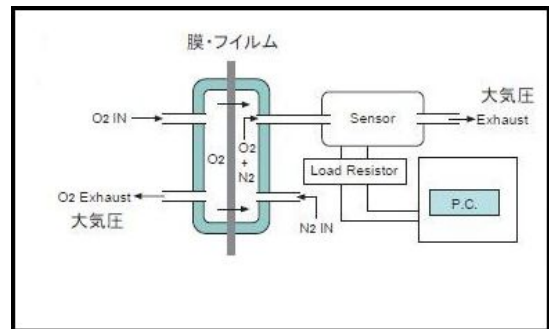
入場料：無料（登録制）

## ○業務案内

### 1) フィルム・シートなどの酸素透過試験 (MOCON 法)

高分子試験・評価センター

- 測定はサンプルの片面にテストガスとなる酸素 (パッケージの場合は大気)、反対面にはキャリアガスである窒素を流します。分圧の大きい方の酸素分子はポリマーの中にあるフリーボリューム (ポリマー鎖間の隙間) を透過し、キャリアガスによってクーロメトリックス検出器へ運ばれる事により酸素透過度を求めることが出来ます。



- 以下の様な測定が可能です

ハイバリアなフィルム、シート等での測定

測定下限値が 0.01 cc/m<sup>2</sup>/day/atm となることから、より高度なバリア性能の評価が可能

#### ■ 試験機の仕様

検出器：自己加湿型クーロメトリックス

測定条件：温度 10~40°C、湿度 0~90%RH

測定範囲：0.01~200cc/m<sup>2</sup>/day/atm (マスク使用時：0.1~2000cc/m<sup>2</sup>/day/atm)

サンプルサイズ：10.8×10.8mm (厚さ：10μm~2mm)

#### ■ 対応規格

ISO 15105-2、JIS K7126-2、ASTM (D3985、F1927、F1307)、DIN 53380

#### ◇ 測定事例

フィルムを通常セル(50 cm<sup>2</sup>)、小面積セル(5.64 cm<sup>2</sup>)で試験機に設置し、酸素透過度の測定を行なったときの測定数値の違いを検証する。



通常セル (50cm<sup>2</sup>)



小面積セル (5.64cm<sup>2</sup>)

## 2) WEB オンライン試験相談について

### 高分子試験・評価センター

高分子試験・評価センターでは、事前予約制によるオンライン試験相談サービスを開始致しましたのでご案内します。本サービスは、オンライン会議アプリ「Microsoft Teams（若しくはZoom Cloud Meetings）」を利用して行います。事前予約の方法は、弊機構ホームページにございますご依頼フォームに必要事項をご入力の上、お申込みください。弊センター担当者から日程調整等のご連絡をさせていただきます。

なお、ご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となりますので、オンライン試験相談をご利用される前に、ご利用のインターネット環境を必ずご確認ください。あらかじめパケット定額制サービスにご加入のうえご利用ください。詳しくは携帯電話会社・通信会社にお問い合わせください。

また、訪問して打合せが必要な場合はご相談下さい。

\* オンラインによる試験相談をご希望の方は、弊機構ホームページよりお申込み願います。

<https://www.jcii.or.jp/dsadmin/directs/index/143/>

### 高分子試験・評価センター 事業所のご案内

#### (東京事業所)



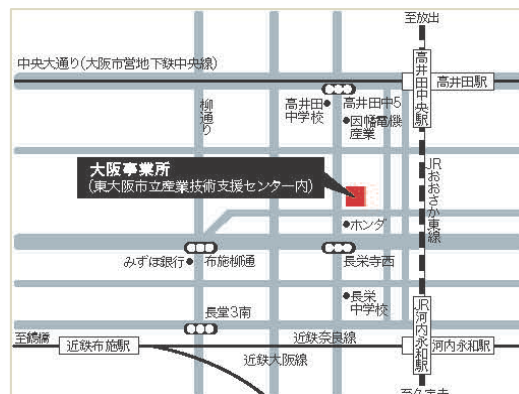
〒135-0062 東京都江東区東雲 2-11-17

TEL : 03-3527-5115 FAX : 03-3527-5116

E-mail : [tokyo@jcii.or.jp](mailto:tokyo@jcii.or.jp)

○ りんかい線「東雲駅」より 徒歩 2分

#### (大阪事業所)



〒577-0065 大阪府東大阪市高井田中 1-5-3  
東大阪市立産業技術支援センター内

TEL : 06-6788-8134 FAX : 06-6788-7891

E-mail : [osaka@jcii.or.jp](mailto:osaka@jcii.or.jp)

○ 近鉄奈良線・JRおおさか東線「河内永和駅」より 徒歩 12分

○ 近鉄大阪線・奈良線「布施駅」より 徒歩 15分

○ 大阪メトロ中央線「高井田駅」より 徒歩 20分

JCII News (Japan Chemical Innovation and Inspection Institute News) 2021年4月 第19号

発行人 照井 恵光

発行所 一般財団法人 化学研究評価機構

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-11-9 イトーピア橋本ビル 7階

TEL : 03-5823-5521 FAX : 03-3865-3051

URL : <https://www.jcii.or.jp>

本誌の内容に関するご意見、ご質問はJCII営業企画部 ([info\\_jcii@jcii.or.jp](mailto:info_jcii@jcii.or.jp)) までお寄せ下さい。  
本誌の内容を無断で複写・複製・転載することを禁じます。